



男女共同参画国際シンポジウムを開催

2013年10月15日～16日、イギリス・ダラム大学医学教育学講座教授 Jan Illing 先生を招聘して、帝京大学板橋キャンパスにて男女共同参画国際シンポジウムを開催しました。ダラム大学からは Jan Illing 先生、Gill Morrow 先生、大学院生の Paul Crampton さんの3名が帝京大学に来校しました。

ダラム大学 Jan Illing 先生と Gill Morrow 先生は長年ダラム大学で女性支援に取り組んでおられ、女性が社会に進出する際に問題となるガラスの天井についてイギリスの状況を講演しました。イギリスの自然科学系の学界で女性が上位職に登用されることはまだまだ少なく、研究者としてキャリアを構築するための支援についてさまざまな工夫が紹介されました。また国内からは帝京大学、秋田大学（蓮沼直子先生）、東京女子医科大学（野原理子先生）、聖路加国際病院臨床研究センター（坂元晴香先生）、国立保健医療科学院（吉田穂波先生）、東京慈恵会医科大学（川瀬和美先生）から女性研究者支援の取り組みについて紹介が行われました。その後、Jan Illing 先生による医療系研究者のための質的研究セミナーが行われ1時間を超える包括的な講義を提供していただきました。

また15日には、医師不足 /GP/ 女性医師に関するミニシンポジウムが開催され、Jan Illing 先生と Paul Crampton さんより「イギリスにおける医療教育と医師不足の問題や女性の活用の重要性」について講演がありました。イギリスでも医師不足や地域医療の格差が生じており、女性医師の活用やプライマリケア技能の習得などが重要であるとお話がありました。本シンポジウムは2日間に渡る充実した内容で盛況のうちに終えることができました。

シンポジウム概要

男女共同参画国際シンポジウム

2013年10月16日(水)
午後2時30分～4時30分

男女共同参画企画 女性支援ミニシンポジウム
Teikyo-Durham mini symposium on women in academia and medicine

場所：帝京大学板橋キャンパス
司会：野村恭子（帝京大学女性医師・研究者支援センター）

- イギリス・ダラム大学の取り組み
Barriers and enablers to senior promotion in academia in the UK
Dr. Morrow and Prof. Illing (Durham University)
- 帝京大学の取り組み 野村恭子（帝京大学女性医師・研究者支援センター）
- 秋田大学における医学生のためのキャリア形成支援カリキュラム 蓮沼直子先生（秋田大学）
- 女子医大の取り組み 野原理子先生（東京女子医科大学）
- 厚生労働省科研究費研究班女性医師復職・継続就労支援の取り組み 坂元晴香先生（聖路加国際病院臨床研究センター）
- よき母、研究者、医師として 吉田穂波先生（国立保健医療科学院）
- 日本女性外科医の現状と問題点 国際比較調査より 川瀬和美先生（東京慈恵会医科大学）

このほかのイベント

医師不足 /GP/ 女性医師に関するミニシンポジウム / 帝京・ダラム大学交流会 / 帝京大学公衆衛生研究医養成プログラムの紹介（10月15日） 医療系研究者のための質的研究セミナー（10月16日）

特集

2013年9月 文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に採択

2013年9月、帝京大学は文部科学省「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択を受けました。本事業は、女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産・子育て等のライフイベントと研究を両立するための環境整備を支援することを目的としています。今後、さらに積極的な活動を展開することが国から求められています。

帝京大学女性医師・研究者支援センターとしても、ますます活発に活動を行っていく所存です。ここでは、本事業に採択されてから、本センターが実施してきた活動をご紹介します。

保育支援制度

女性研究者の仕事と家庭の両立を支援するために、病児・病後児保育や乳幼児保育に対する経済的支援を行います。子どもの急な病気や怪我などによって発生する突発的な病児・病後児保育、介護により困難となる乳幼児保育に対し、それぞれの利用料金と夜間保育利用料金の補助を行う制度です。保育施設を利用した際に支払った費用の一部を利用料補助として支援いたします。

働く女性にとって、予測のできない子どもの病気や介護の負担は、仕事の継続を妨げる大きな要因となっています。この制度は、そのような不測の事態にも安心して保育施設を利用できるような環境整備をめざしています。

※今年度の応募は終了しました。来年度も同様の活動を行う予定ですので、関心のある方は女性医師・研究者支援センターまでお問い合わせください。



研究支援員制度

子育て中・介護中の帝京大学所属の研究者を対象に、研究支援員の配置が行われています。

これは、出産・育児・介護に直面し研究時間の確保が困難となった女性研究者に対して、研究のお手伝いをする研究支援員（大学院生が中心）を配置し、忙しい中でも研究活動が継続できるように支援する制度です。女性研究者のみならず、配偶者が研究者である男性研究者に対しても、子育て中・介護中であれば同様の支援を行っています。

制度を利用する研究者への支援となるだけでなく、雇用される研究支援員にとっても、経済的支援、また雇用主である研究者から身近に指導を仰ぎながら自身の研究活動を進める良い機会となります。

女性研究者の仕事と家庭の両立を支援しながら、女性研究者の育成を行う、本センターの理念に合致した事業です。現在、本センターのある板橋キャンパスを中心にさまざまな学部の先生方がこの制度を利用されています。

●研究支援員

(2014年1月29日現在)

全体 22人

(内訳)

医学部	4人
薬学部	4人
医療技術学部	5人
文学部	4人
教育学部	4人
溝口病院	1人

※今年度の応募は終了しました。来年度も同様の活動を行う予定ですので、関心のある方は女性医師・研究者支援センターまでお問い合わせください。



制度利用者の麻生保子准教授【右】（医療技術学部看護学科）と支援員の公文雅子さん【左】



制度利用者の黒白恵子講師【左】（医療技術学部看護学科）と支援員の齋木寛子さん【右】

ジャーナルクラブ

女性研究者を育成するための活動の一環として、大学院生や若手研究者を対象に、海外の一流雑誌に掲載された論文を読み解くジャーナルクラブを実施。このほか、本センター室長の野村による論文指導、若手研究者との共同研究などを行っています。

ジャーナルクラブは、女性医師・研究者支援センターにて毎月定期的開催され、海外の一流雑誌に掲載された最新の研究を読み解き、リサーチマインドを醸成させることを目的としています。これまでに、多数の論文を読みながら、疫学の基礎知識から疾病、死亡要因の解析法まで幅広く枝葉を広げながら学んできました。いくつか取り上げた論文を紹介すると、たとえば、超高齢化社会突入に向け人口関節と死亡率との関連を検討したものや、12月にはクリスマス特別企画として①ジェームズ・ボンドがアルコール中毒であったかどうか、②チョコレートボックスがなくなるまでどのくらいの期間がかかるか、などについて生存分析を用いた論文を読むなど、参加する方々に楽しんでもらえるような工夫も取り入れています。参加者には医学部・薬学部などの学部生から大学院生、若手研究者や卒業生、臨床医まで幅広く来ていただいています。

ジャーナルクラブは毎月第2、第4木曜日の18:00より、板橋キャンパスの女性医師・研究者支援センターにて開催されます。参加をご希望の方、興味のある方は、本センターまでお問い合わせください。



女性医師・研究者支援センターの整備

本センターにいらした方にご利用いただけるよう、女性のキャリアデザイン、ワークライフバランス、男女共同参画社会や福祉政策など、悩みを持った女性や男女共同参画社会に関心を持つ人に役立つ本や資料を整備しました。それだけでなく、論文の書き方、科研費の申請の仕方、統計分析や質的分析、医学、心理学など、研究に役立つ本もそろえています。キャリアデザインに悩んでいる方、研究の参考にしたい方は、女性でも男性でも、お気軽にご利用ください。

また、Facebookにて情報発信を行っております（<https://www.facebook.com/tscwpr>）。ジャーナルクラブやシンポジウムのご報告もFacebook上で行っておりますので、ぜひご覧ください。

●これまでにいったジャーナルクラブ（抜粋）

2013年11月14日:

BMJよりAssociation between body mass index and cardiovascular disease mortality in east Asians and south Asians: pooled analysis of prospective data from the Asia Cohort Consortium (Chen, et al, 2013)など2編

2013年11月28日:

BMJよりActual Causes of Death in the United States, 2000 (Ali H.Mokdad, et al, 2004, JAMA)など3編

2013年12月12日:

BMJよりMortality rates at 10 years after metal-on-metal hip resurfacing compared with total hip replacement in England: retrospective cohort analysis of hospital episode statistics(Kendal, et al, 2013)など2編

2013年12月26日:

BMJよりThe survival time of chocolates on hospital wards: covert observational study(Parag, et al. 2013)など2編

2014年1月9日:

JAMAより2014 Evidence-Based Guideline for the Management of High Blood Pressure in Adults: Report From the Panel Members Appointed to the Eighth Joint National Committee (JNC8) (James, et al. 2013 JAMA)など2編



男女共同参画推進委員会も開催

今後の 取り組み

ルーベン大学高血圧研究所 Jan Staessen 教授と日本人研究者 2 名を招聘し、女性研究者のキャリアアップを目的とした講演会を行います。

2014 年 3 月 24 日 (月) 板橋キャンパス 204 教室

ベルギーのルーベン大学高血圧・疫学研究センターでは、家庭血圧や 24 時間自由行動下血圧に関する世界各国のコホート研究のデータを集約し、循環器予後を中心とした大規模研究を展開しています。今回のセミナーでは、同センターから主任教授と 2 名の学術研究員を帝京大学にお招きし、世界の研究者事情についてお話を伺います。

将来的に、国際共同研究への参画や海外への研究留学を希望されている方には情報収集の絶好の機会です。奮ってご参加ください。

参加をご希望の方は、事前に当センターまでお申し込みください。
なお、参加は無料です。

■お問い合わせ先

帝京大学女性医師・研究者支援センター 田島
(センター長 沖永寛子 / 室長 野村恭子)
Tel. 03-3964-8456
E-mail : women@med.teikyo-u.ac.jp

講演会スケジュール

15:30 ~ 16:15

「女性研究者のキャリアアップ
ルーベン大学高血圧研究所における
キャリア構築」 Jan Staessen 先生



16:15 ~ 17:00

「ベルギーの研究者たち 男性研究者の視点から」
浅山 敬先生

17:00 ~ 17:45

「女性研究者のキャリアアップ
海外研究者の選択とワークライフバランス」 原 梓先生

18:00 ~ 19:30

帝京大学臨床研究センター (TARC) 主催
女性医師・研究者支援センター共催
TARC セミナー
「Moving 'omics' to clinical practice」
Jan Staessen 先生

本センターでは今後もますます積極的に活動をしていく所存です。センターへのご質問、ご要望などがございましたら、遠慮なくお問い合わせください。今後とも本センターの活動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

スタッフ より

「女性研究者研究活動支援事業」に採択 —センターの熱い思いが届きました!—

着任後のある日、野村恭子室長と話をすることがあり、日本は先進国の中で女性の活用が一番遅れているという話題になりました。女性がキャリアを継続・向上するために大事なことは、まず男性の理解。そのためには、男女の比率「ジェンダーバランス」ととられず、仕事の実績を男性と同等かそれ以上に積み、女性自身が能力を向上させることが大事である。熱いコーヒーの相伴をしながらセンターの理念を咀嚼しました。これが届いたのか、9月に文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、事業は本格的に始動しました。雖に孵ったばかりのセンターですが、増員したスタッフの熱気に満ち溢れており、今後のさらなる成長が期待されます。どうか皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



帝京大学女性医師・
研究者支援センター
田島 伸子

■お問い合わせ先

帝京大学女性医師・研究者支援センター

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6 階

Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail : women@med.teikyo-u.ac.jp

URL: http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/

開室曜日・時間：月～金 9:00-17:00

※掲載情報は 2014 年 3 月現在のものです。 編集：竹内 真純